

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和4年度分）

<県の評価等>

施設所管部名：子ども・福祉部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県聴覚障害者支援センター（津市桜橋二丁目131番地）
指定管理者の名称等	一般社団法人三重県聴覚障害者協会 会長 深川 誠子
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者等用の録画物、その他各種情報を記録した物の制作または貸出に関する事。 ・手話通訳者、要約筆記者及び盲ろう者通訳・介助員の養成または派遣に関する事。 ・情報支援機器の貸出、聴覚障がい者の生活等の相談など、地域生活の支援に関する事。 ・災害発生時における被災者支援に関する事。 ・センターの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務 ・その他センターの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			機器の管理や点検を定期的に行うとともに、適切な施設管理を行っており、管理業務の実施状況は良好である。
2 施設の利用状況	C	B	+		受付に磁気ループなどの機器を常備し、聴こえを支援する利用環境を整えている。また、施設内での感染防止対策の徹底など、安心して利用できる環境整備に努めており、利用者数は令和3年度より増加している。
3 成果目標及びその実績	C	B	+		施設利用者数の目標達成率は83.8%であり、目標を達成することができなかったものの、5項目の成果目標のうち4項目において目標を達成した。コロナ禍にあって、目標を達成した項目が、令和3年度に比べて2項目増加している。

※「評価の項目」の県の評価：

「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、利用者の要望に基づいて助聴器や窓口用磁気ループ等聴こえを支援する機器を設置し、利用環境の整備を図っている。 ・ホームページやLINEを活用して聴覚障がい者に関する情報発信を積極的に行うとともに、遠隔手話通訳サービスの説明会・体験会を開催するなど、ICTを活用した遠隔手話相談・通訳体制を整え、利用促進に努めている。 ・毎年開催しているセンターまつりを初めて屋外（三重県総合文化センター知識の広場）で開催することで、来場される県民に聴覚障害者支援センターの認知度向上を図るなど、センターの周知に積極的に取り組んでいる。 ・施設利用者数については目標値（4,600人）には達しなかったものの、令和3年度より増加（3,165人→3,855人）しており、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数が回復してきている。 ・施設利用者数以外の4項目の成果目標については、目標を達成している。 <p>以上のことから、三重県聴覚障害者支援センターの指定管理者として概ね適切に管理・運営を行っている判断する。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和4年度分)>

指定管理者の名称: 一般社団法人三重県聴覚障害者協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 三重県聴覚障害者支援センター運営事業の実施に関する業務

- ・字幕映像ライブラリーの貸出は聾学校への出張貸出も含め 308 件、また制作は啓発や教材用も含め 24 本となった。
- ・意思疎通支援を担う新しい人材を確保するため、手話通訳者養成研修、要約筆記者養成研修、盲ろう者通訳・介助員養成研修を開催し、それぞれ 18 名、7 名、4 名が受講した。
- ・意思疎通支援者及び盲ろう者通訳・介助員として登録している方を対象にしたスキルアップ研修を開催し、延べ 410 名が受講した。
- ・市町や障がい当事者団体等からの派遣要請に応じて、県に登録している手話通訳者等を派遣した。
- ・難聴者・中途失聴者を対象とした生活訓練として手話教室を、毎月 1 回開催した。
- ・情報支援機器の貸出が増加している中、必要なメンテナンス管理を行いながら対応をした。
- ・災害発生の際に、早急に聴覚障がい者への安否確認や支援活動を行うために必要な要支援者名簿を対象市町から受け取り、情報の更新を行った。
- ・心のバリアフリー事業として、盲ろう者に対する理解促進を図るための動画を当事者団体の協力を得て作成し、ホームページに 8 回連載した。また、センターまつりを初めて屋外（三重県総合文化センター知識の広場）で開催した。来場される県民に、気軽に立ち寄ってもらえる機会となった。
- ・災害支援サポーター養成講座について、聴覚障害者災害救済みえ本部の協力を得て「クロスロードゲーム」を行い、新規の登録者を得た。
- ・ICTを活用した遠隔手話通訳サービスの説明会・体験会を 6 カ所で開催し、利用促進を図った。
- ・全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催の各種研修を積極的に活用し、担当職員の資質向上・研鑽に努めた。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

所有する機器の管理・点検を随時行った。また、経年劣化による備品の買替等、必要な措置を行った。

③ 県施策への配慮に関する業務

ア 人権尊重社会の実現

ICTを活用した遠隔テレビ電話システムを活用し、きこえない人の手話による相談等のやりとりが、きこえる人の音声通話と同等にできる環境を維持した。

イ 男女共同参画社会の実現

三重県聴覚障害者支援センター職員に女性を多く配置している。また、手話通訳者等においては女性が積極的に活動している。

ウ ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

センター入口に補助犬受け入れステッカーや手話マーク、筆談マーク、点字板見取り図を掲示し、受付には窓口用磁気ループ、簡易筆談器及び助聴器、集音器を設置している。団体や企業からの聴覚障がい者への合理的配慮についての相談に応じ、聴覚障がい者支援機器の紹介や助言を行った。

エ 次世代育成支援の推進

三重県立盲学校や聾学校の生徒がセンターの見学に訪れた際、今後の社会生活におけるセンターの利活用について説明を行った。

オ 環境保全活動の取組

コピー用紙の再生紙利用、グリーン購入や両面印刷等を行うとともに、部屋を使用しない際は消灯やエアコンを切ることを徹底するなど、環境保全活動に努めた。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県聴覚障害者支援センターの管理に関する情報公開実施要領」及び「三重県聴覚障害者支援センターの管理に関する文書整理保存要領」を平成 24 年 4 月 1 日に制定している。
- ・令和 4 年度中の開示請求は 0 件であった。
- ・個人情報保護については、「三重県聴覚障害者支援センターの管理に関する基本協定書」第 11 条の「個人情報の保護」に関する事項を遵守するとともに、指定管理者である一般社団法人三重県聴覚障害者協会が平成 24 年 4 月 1 日に制定した「保有個人情報取扱規程」及び「三重県聴覚障害者支援センター個人情報保護実施要領」に基づき対応している。

⑤ その他の業務

該当なし

(2) 施設の利用状況

聴覚障がい者や支援者による各種会合、研修のための利用が中心となっている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う利用人数の制限が続いているが、年間利用者数は前年度より増加し 3,855 人となった。
利用申請数・・・123 件（※センター事業を除く）

2 利用料金の収入の実績

該当なし

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	29,584,000	30,461,000	事業費	13,105,134	14,772,383
利用料金収入			管理費	16,142,383	15,627,766
その他の収入	69	80	その他の支出	0	0
合計 (a)	29,584,069	30,461,080	合計 (b)	29,247,517	30,400,149
収支差額(a)-(b)	336,552	60,931			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	<ul style="list-style-type: none">・施設利用者数 4,600 人・字幕付映像等聴覚障がい者が受け取りやすい方法による情報発信回数 年 240 回以上・生活訓練（難聴・中途失聴者向け手話教室）実施回数 年 10 回以上・手話通訳者、要約筆記者及び盲ろう者通訳・介助員養成講座受講継続率 90%以上・職員専門研修受講率 100%
成果目標に対する実績	<ul style="list-style-type: none">・施設利用者数 3,855 人・字幕付映像等聴覚障がい者が受け取りやすい方法による情報発信回数 年 271 回・生活訓練（難聴・中途失聴者向け手話教室）実施回数 年 12 回・手話通訳者、要約筆記者及び盲ろう者通訳・介助員養成講座受講継続率 100%・職員専門研修受講率 100%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none">・より多くの方々に三重県聴覚障害者支援センターを知ってもらい、利用してもらえよう、情報発信やイベントでの啓発をさらに進めるとともに、関係団体の協力を得ながら周知を行い、利用者の増加を図るよう努める。・聴覚障がいに対する県民の理解を促進するための映像制作を行い、引き続きホームページで積極的に発信していく。・きこえない人が参加しやすい情報保障のあるイベント等の開催情報を、タイムリーに発信できるよう、ホームページやLINEの活用を今後も継続する。・字幕映像ライブラリー作品について、聴覚障がいのある子どもやその保護者など利用が多い対象層を考慮したDVD作品を増加させることで、貸出数の向上に努めていく。・遠隔相談・遠隔手話通訳サービスがより使いやすくなるよう検討していく。

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理や点検を定期的に行うとともに、備品においても適切な維持管理を行っており、管理業務の実施状況は良好である。
2 施設の利用状況	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う利用人数制限を行いつつ、入室の際には体調管理シートの記入、マスクの着用、検温や消毒等を徹底した。 受付には助聴器や窓口用磁気ループ、筆談ボードなどを設置し、きこえにくい方々を支援する対応を行った。
3 成果目標及びその実績	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数は令和3年度に比べ増加したとはいえ3,855人となり、目標値4,600人に対して83.8%の達成率となった。 情報発信回数は、目標年240回以上に対し、実績271回となり、目標値を達成した(112.9%)。 生活訓練は、毎月実施することができ、目標値10回を上回った。 手話通訳者・要約筆記者及び盲ろう者通訳・介助員養成講座受講継続率については、すべてにおいて目標を達成できた。 職員専門研修受講率については、オンラインでの受講機会を積極的に活用し、目標値100%に対し実績100%となり目標を達成できた。

※評価の項目「1」の評価： 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価： 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標5項目のうち、4項目において成果目標を達成した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う人数制限を行う中ではあるが、少しずつ事業が元に戻りつつある。オンラインで行われる研修等については、今後も積極的に活用できるよう、引き続き環境整備に努めたい。 センターのホームページで聴覚障がいに対する理解を広げる動画を連載したところ、閲覧数が大幅に増加し、関心が広がっていることを実感した。引き続き、ホームページやLINEによる情報発信を進めることで、センターを知ってもらい、利用してもらうことにつなげる取組を広げていくことが必要である。 遠隔相談・遠隔手話通訳サービスの普及啓発をさらに進める必要がある。市町や関係団体の協力を得て、説明会や体験会の機会を今後も設けていきたい。 意思疎通支援を担う新しい人材を養成する講座の受講率は良好な傾向にあるものの、継続的かつ効果的な養成方法の検討が必須であり、今後の検討課題として状況を整理していく必要がある。
--------	---